

ストライプトバス (*Morone saxatilis*) に関する情報

原産地：北アメリカ

定着実績：1927年、1972年、1973年に導入が試みられたが、定着せず。近年、本種が東京湾や霞ヶ浦から採捕されたが、定着の有無は不明。

被害の実態・被害のおそれ

- 大型になるスズキ亜目の魚食性魚類であり、カリフォルニア州の Lake Davis では、在来生物相への影響が懸念され、駆除が行なわれている(文献)。
- 北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、日本全国への定着の可能性が想定される。

被害をもたらす要因

生物学的要因

- 最大で全長 200cm に達する大型の上位捕食者であり、成魚は主に魚類と甲殻類を捕食する。
- 塩分への耐性が広く、淡水域から汽水域、海域まで生息できる。
- 通常、春に産卵のために河川をのぼるが、陸封され淡水域のみで生活史を完結する個体群もいる。
- 北アメリカ原産のため、冬の低水温に耐え、日本全国で生息が可能である。

特徴ならびに近縁種、類似種について

- スズキ型の体形をしており、白銀色の魚体で、体側に細い黒縦線が数本入る。
- 日本に同属種は生息していない。

その他の関連情報

- ストライプトバスは、シマスズキとも呼ばれる。
- 非分布域であったカリフォルニア州、メキシコ、南アフリカ、エクアドル、ロシア、イランなどに定着し、在来魚への影響が懸念されている。ただし、ハワイやオーストラリアでは定着に失敗している。
- Lake Davis では、本種とノーザンパイクを駆除するために、多額の予算が使われている。
- *Morone* 属 4 種はイングランド、ウェールズにおいて大臣の許可なしに保有、放流が禁止されている。
- アメリカ南部ではメスのホワイトバスの卵にオスのストライプトバスの精子をかけた交雑

種(サンシャインバス)の養殖が行われている。

- 1960年、同属のイエローバス (*Morone mississippiensis*) が導入され飼育されたが死亡した。サンシャインバスは、近年、霞ヶ浦で捕獲された。
- 原産地などでは釣り魚として人気種であり、日本でも一部の管理釣り場で利用されている。
- 茨城県では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。

主な参考文献

California Department of Fish and Game (2003) Managing Northern Pike at lake Davis: A Plan for Year 2000:Three Year Report, 23pp.

California Department of Fish and Game (2004) Lake Davis Northern Pike Eradication Options, 14 pp.

FishBase (www.fishbase.org)

Fuller, P. L., L. G. Nico and J. D. Williams (1999) Nonindigenous fishes introduced into inland waters of the United States. American Fisheries Society, Special Publication 27, Bethesda, Maryland

Lever C (1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press. Xxiv+408 pp.

水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所(1987)外国産新魚種の導入経過 157 pp